

感染症情報 2月1日～7日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

| | | |
|------------|-------|----------|
| ①感染性胃腸炎 | 1263例 | （堺市 39例） |
| ②溶連菌感染症 | 563例 | （堺市 32例） |
| ③おたふくかぜ | 150例 | （堺市 13例） |
| ④RSウイルス感染症 | 112例 | （堺市 5例） |
| ⑤伝染性紅斑 | 85例 | （堺市 3例） |

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 9714例（堺市 804例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から微増し、上位3位の順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。インフルエンザは56%増加し、定点当たり31.6と警報レベルの30を超えた。堺市でも28.7と警報レベルに達している。堺市の定点調査ではA型とB型がほぼ半々で小学生ではB型が66%、成人では逆にA型が77%を占める。2月8日現在、堺市では12校13学年（うち南区8）で学年閉鎖、28校48クラス（うち南区14）が学級閉鎖となっている。